

入 選

命の水

筑西市立下館中学校

一年 藤代 かりす

鮭が川を上る姿を、小学生の時に初めて見ました。岩を越えるため、流れてくる川に何度も立ち向かって、一生懸命に川を上る姿に力強さを感じました。

私が住む筑西市には勤行川が流れ、鮭がそ上することでも知られています。街中を流れているため、とても身近にその様子を見ることができず。勤行川は一年を通して、いろいろな風景を私たちに見せてくれます。

小学校では、総合学習で勤行川の生き物や環境について学び、鮭の稚魚の放流もしました。そして、霞ヶ浦や浄水場に行つて、水に関わる学習をしました。霞ヶ浦では船に乗って霞ヶ浦を巡り、浄水場ではその霞ヶ浦の水を浄化し私たちに生活水を届ける

ことを学びました。

水は、さまざまな用途で私達の生活を支えてくれています。農業や工業用水、水力発電などがありますが、やはり一番身近なのは、日常生活には欠かすことのできない水なのではないかと思っています。

私は水が大好きです。水を飲むと元気がわいてきます。特にスポーツで汗をかいた後の水は体がすっきりし、さらになんばろうという気持ちになります。日本では、きれいな水を飲むことができます。私たちが生活するうえで水は欠かせないものですが、水があることが当たり前のように思っていました。

しかし、世界に目を向けるとどうでしょうか。テレビのCMで、「生きるためには汚い水でも飲まなくてはならない」というのを見て驚きました。そこで、世界の水の事情について調べてみました。

世界全体でみると、発展途上国を中心に、二十億人の人が自宅で安全な水を利用できない状況であり、そのうちの約九億人が安全な飲み水が手に入らないのが現状です。池や川から汲んできた水が生活の水なのです。また、その水汲みをしている人が子

供であることにも驚きました。往復六時間もかけて歩いていくのです。日本では、蛇口をひねればきれいな水が出て容易に水を使用できますが、世界ではこんなに苦労している国があるのだと胸が痛くなりました。私たちが学校で勉強しているのと同様同じ時間が水汲みに行っている時間なのです。生きるための六時間。私にはとても考えられない事実でした。さらに、汚れた水を飲むことで、たくさんの子供が命を落としていることにもです。

今、コロナウイルスの影響で、手洗い・消毒がさげられています。私も今まで以上に手洗いを念入りにし、たくさんのお水を使うようになりました。ふと考えてみると、日本では水道から水が出て、きれいな水が使用できるから、きれいに手を洗えているのだと気付きました。この状況に、心から感謝したいと思いました。

水は、私たち人間を含め、地球上のすべての生き物にとって、大切な生命の源です。そしてかぎりある資源です。今、世界の水環境を改善するために、各地でいろいろな取り組みが行われています。その

中できれいな水を汚さない工夫など、私たちにできることを考えていきたいと思っています。私たちにできることは小さなことかもしれませんが、その一人一人の小さな取り組みが積み重なり、問題解決へとつながっていくように思います。

私が放流した鮭の稚魚は、今年の秋にはこの勤行川に戻ってくると思います。未来の命をつなぐために。その姿をまた見に行きたいと思っています。そして、たくさんのお鮭が戻る姿を、これからも残していきたいです。今の私たちの取り組みが十年後、二十年後の未来をつくります。未来に向けて、生きるためのきれいな水を守っていきましょう。